

● スタンド・アップの歴史

2006年：STAND UP



「貧困をなくそう」という世界の人々の声を一つにするために、
スタンド・アップは始まりました。1年目に見事ギネス記録を樹立しました。
参加者数：世界：2354万2614人、日本：2711人

2007年：STAND UP SPEAK OUT



自身が持つギネス記録を更新しました。日本でプロサッカー国際試合の
協力を得るなどして、参加者数が飛躍的に増加しました。
参加者数：世界：4371万6440人、日本：4万8205人

2008年：STAND UP TAKE ACTION



世界131ヵ国で7777のイベントが実施され、ギネス記録を
またしても更新しました。日本では草の根のイベントが増加しました。
参加者数：世界：1億1699万3629人、日本：2万2698人

2009年：STAND UP TAKE ACTION



世界一大きな同時アクションとして、前年比約1.5倍の参加を集めました。
国内では46都道府県にスタンド・アップの輪が広がりました。
参加者数：世界：1億7304万5325人、日本：3万4255人

● 参加・協力組織一覧

【企業】朝日新聞社、アマタ株式会社、NECソフト株式会社、NEC、大分東洋ホテル、オリンバス株式会社、株式会社街波通信社、KeepAlive株式会社、株式会社シマンテック、グレイワールドワイド、シチズンホールディングス株式会社、ティンバーランドジャパン株式会社、株式会社電通、株式会社トライ、株式会社博報堂、株式会社リコー、リコージャパン株式会社【政府関係機関】外務省、独立行政法人国際協力機構（JICA）【国際機関】国際連合広報センター（UNIC）、国際連合開発計画（UNDP）、国際連合食料農業機関（FAO）【小中高校※学生有志企画を含む】岩手県立不来方高等学校、大阪府立佐野高等学校、大阪教育大学附属高等学校池田校舎、大阪教育大学附属高等学校天王寺、神奈川総合高等学校、京都市立明親小学校、キリスト教愛真高等学校、公文国際学園、甲陵高等学校、駒場高等学校、埼玉県新座市立第三中学校、湘南学園高等学校、セントヨゼフ女子学園、千葉県立東金高等学校、銚子特別養護学校、筑波大学附属駒場中学校、同志社中学校、同志社高等学校、都立国際高等学校、取手松陽高等学校、長野県赤穂高等学校、豊中市千成小学校、寝屋川市立第八中学校、八戸聖ウルスラ学院高等学校、広島県竹原市立仁賀小学校、藤沢総合高等学校、不二聖心女子学院高等学校、北海道石狩市立厚田中学校、マキノ北小学校、瑞穂市立穂積中学校、穂積中学函館市立亀尾小中学校、横浜雙葉高等学校、横浜隼人高等学校、立命館守山高等学校【大学※学生有志企画を含む】亜細亜大学、桜美林大学、大阪女学院大学、関西学院大学、京都外国語大学、敬愛大学、恵泉女学園大学、慶應義塾大学、国際基督教大学、国際教養大学、佐賀大学、静岡県立大学、首都大学東京、上智大学、創価大学、千葉大学、津田塾大学、東洋大学、東北大学、東京国際大学、東京農業大学、東京経済大学、東京外国語大学、東京大学、東京女子大学、名古屋外国語大学、名古屋大学、日本大学、一橋大学、福井県立大学、法政大学、宮崎大学、立教大学、立命館大学、立命館アジア太平洋大学、早稲田大学【労働組合】日本労働組合総連合会（連合）、サッポロビール労働組合、ニチレイ労働組合、三菱化学黒崎労働組合、明治乳業労働組合【その他組織】グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク、社団法人ガールスカウト日本連盟、財団法人日本国際交流センター/世界基金支援日本委員会【スポーツ・大会・イベントなど】ジュピロ磐田（Jリーグ）、富山グラウジーズ（bjリーグ）、第20回「全国福祉ゲートボール大会」、茶道裏千家淡交会、AFCアジア/アフリカ チャレンジカップ2007【NGO/NPO】特定非営利活動法人アユス仏教国際協力ネットワーク、特定非営利活動法人WE21ジャパン、特定非営利活動法人ACE、特定非営利活動法人開発教育協会、特定非営利活動法人国際協力NGOセンター（JANIC）、公益財団法人ケア・インターナショナル・ジャパン、COP10折り紙プロジェクト、コンサベーション・インターナショナル、社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、社団法人シャンティ国際ボランティア会、特定非営利活動法人シャプラニール＝市民による海外協力の会、WWFジャパン（世界保護基金ジャパン）、財団法人日本フォスター・プラン協会、財団法人日本ユニセフ協会、特定非営利活動法人日本リザルツ、特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド、反貧困ネットワーク、ピースポート、Make the RULEキャンペーン、特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン※掲載は一部です。このほかにも多くの方々にご参加、ご協力いただいています。



スタンド・アップ 活動報告書 2010

STAND UP TAKE ACTION 活動報告書2010

【発行人】熊岡路矢（動く→動かす 代表） 【編集人】笠原由晶（動く→動かす 事務局） 【編集】日下佳奈（動く→動かす 事務局）

【制作】浜井美歩（ボランティアスタッフ）

【発行所】動く→動かす 〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6丸幸ビル2F 特定非営利活動法人アフリカ日本協議会（AJF） 気付
TEL：03-3834-6902 FAX：03-3834-6903 E-MAIL：info@standup2015.jp

【PCサイト】<http://www.standup2015.jp/> 【携帯サイト】<http://www.standup2015.jp/m/>

【公式ブログ】<http://ameblo.jp/standup2015/> 【Twitter】<http://twitter.com/standup2015/>

【グローバルサイト】<http://www.standagainstopoverty.org/>（英語・フランス語・スペイン語・ドイツ語）



もう一歩、貧困のない世界へ

「動く→動かす」は、途上国の貧困問題解決に取り組む日本のNGO59団体®が加盟するネットワークです。

発足は2009年3月。「貧困を生むしくみを変える」ことを目的に、スタンド・アップを始めとするキャンペーンや、政策提言などのアドボカシー活動を行っています。世界100カ国以上に拠点を持つ貧困問題解決のためのネットワーク
Global Call to Action Against Poverty (GCAP) の日本版です。※2010年12月31日現在





立ち上がる。 その一瞬の行動が 世界を動かす力になる。

世界の貧困問題解決を目指して2000年に採択された、ミレニアム開発目標（MDGs）。世界189カ国のリーダーたちが「2015年までに世界の貧困を半減する」ことなどを約束しました。しかし、開発途上国への資金援助や技術支援は進んでおらず、目標の達成は大変むずかしいと言われています。このような状況のなか、2006年に始まったグローバルアクションが"スタンド・アップ（STAND UP）"です。世界各地で市民が立ち上がり、参加者数でギネス記録を作って注目を集め※、世界の貧困を終わらせるという強い声を各国のリーダーたちに届けました。

※2010年は、世界全体で実施件数のみを集計したため、ギネス記録への挑戦は行ないませんでした。なお、日本では例年通り参加人数と実施件数を集計しました。

STAND UP TAKE ACTION運営主体

国連ミレニアムキャンペーンとGlobal Call to Action Against Poverty（GCAP）※が推進。日本ではGCAPの日本版「動く→動かす」が国際連合広報センター（UNIC）と協力して運営を担いました。※100カ国以上に広がる、貧困問題解決を目的とした世界最大のネットワーク。

主催	動く→動かす もう一步、貧困のない世界へ	協力	国際連合広報センター（UNIC）
後援	外務省、独立行政法人国際協力機構（JICA）、財団法人日本ユニセフ協会、グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク		

参加者の声

ふみ出した、明日への一歩。
次の世代に貧困を残さないよう、
日々努力を続けます。
（埼玉県／高校生）

国際情勢を注視し、
貧困解決に貢献できる
政権を選択します。
（秋田県／大学生）

小学校の運動会で
実施しました。地域の人たちの
協力によってたくさんの方が
参加してくださいました。
（香川県／教員）

一人ひとりの
アクションは小さくても、
集まれば大きくなる。
貧困削減のために、いま
自分ができることを！
（山口県／大学生）

MDGsを必ず達成する！
という強い気持ちで
立ち上がりました。
（京都府／会社員）

今後の
テイク・アクションは
日々の生活から。安いから選ぶ
のではなく、消費者としての
ポリシーを大切にします。
（北海道／料理人）

貧困解決のために、
一人ひとり目標を考えました！
私たちはこの目標を
必ず達成します。
（神奈川県／高校生）

期限まであと5年。 国連MDGsレビュー・サミットへ 向けたスタンド・アップ。

2010年は、「国連MDGsレビュー・サミット」が9月20日から22日に行なわれる年でした。貧困解決へ向けた目標の達成状況を振り返り、これからの取り組みを話し合うこのサミットは、MDGs達成のためにとても重要な機会です。サミットでの議論に影響を与えるためには、サミットより前にリーダーたちへの働きかけを行なう必要があります。これまでは世界貧困デー（10月17日）前後に全世界で同時に立ち上がり、MDGsの達成と貧困の解消に向けた取り組みを行なうよう各国のリーダーたちに求めてきましたが、2010年に限っては、サミット直前の9月17日から19日にスタンド・アップを行ないました。

日本国内での動き

日本国内では、国連MDGsレビュー・サミットへの関心を高めるイベントや、市民の提言をサミットでの首相の発言に反映してもらうための政策提言活動などが、スタンド・アップを主催するNGOネットワーク「動く→動かす」を中心に行なわれました。また、サミット本番では、2名のNGO代表が政府代表団の一員としてニューヨークに渡航し、市民の声を政府に届ける役割を担いました。



日本最大級の野外音楽イベントFuji Rock Festival 2010に出展。ステージやブースで参加を呼びかけました。



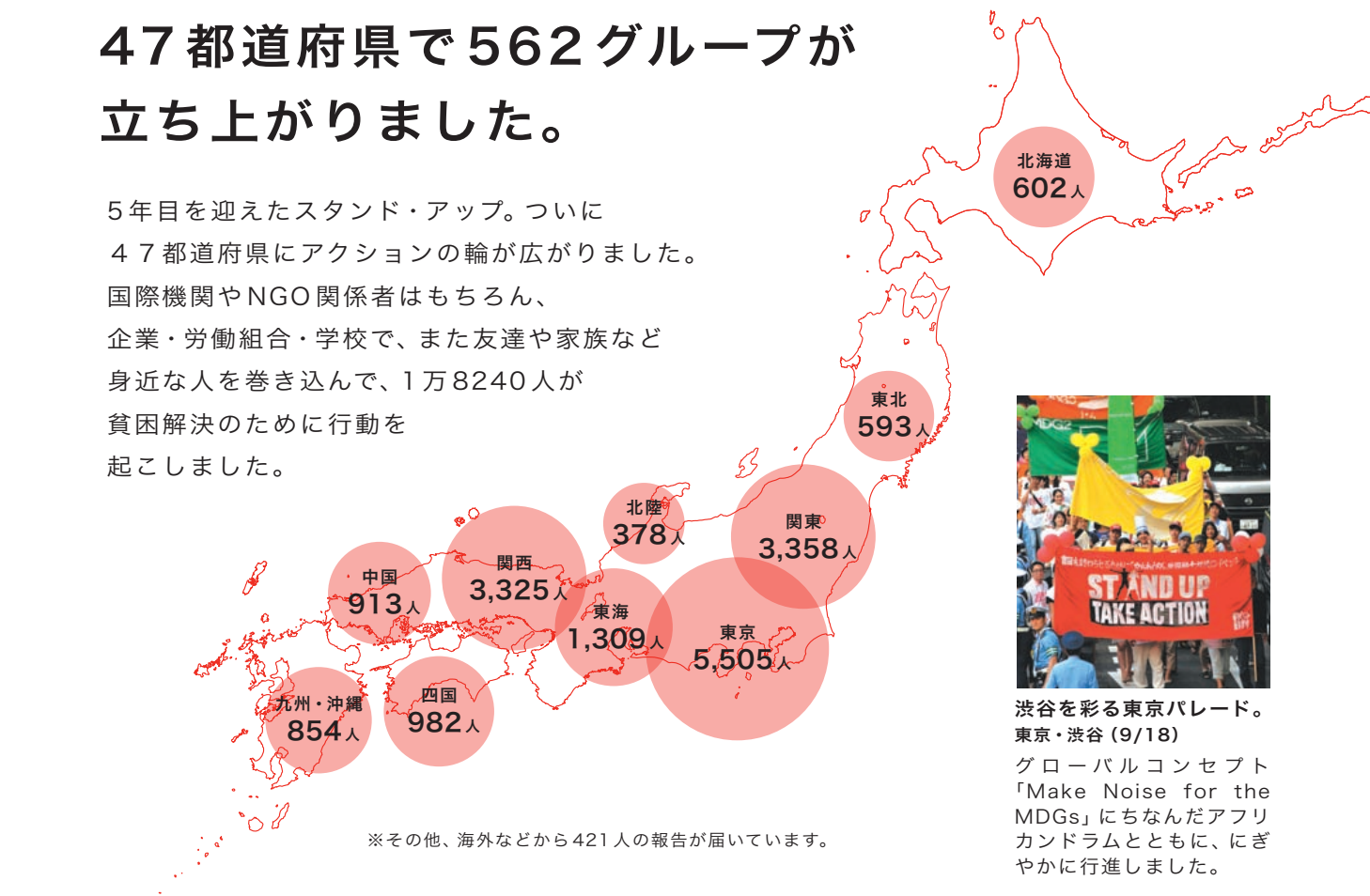
現場で活動するNGOからMDGsを学ぶイベントを、9回シリーズで行いました。このイベントがきっかけで初めてスタンド・アップを知った方も。



貧困のない世界のために、メディアとNGOにできることは？メディア関係者を招いての緊急シンポジウムを開催しました。

日本全国へ広がるスタンド・アップ。 47都道府県で562グループが 立ち上がりました。

5年目を迎えたスタンド・アップ。ついに
47都道府県にアクションの輪が広がりました。
国際機関やNGO関係者はもちろん、
企業・労働組合・学校で、また友達や家族など
身近な人を巻き込んで、1万8240人が
貧困解決のために行動を
起こしました。



渋谷を彩る東京パレード。
東京・渋谷 (9/18)
グローバルコンセプト
「Make Noise for the
MDGs」にちなんだアフリ
カンドラムとともに、にぎ
やかに進しました。



日本と世界の貧困を考える。
東京・築地 (9/19)
日本国内の貧困問題に取り組む「反
貧困ネットワーク」とともに集会を
共催。「声を出そう」という趣旨の
和太鼓演奏に続き、200人の参加者が
立ち上がりました。



外務省も一丸となって。
東京・霞ヶ関 (9/17)
藤村修副大臣が外務省員を代表して、
MDGs達成に向けて一丸となって
努力する決意を示し、大きなかけ声と
ともにスタンド・アップ。約250人が
立ち上がりました。



国連大学前でのスタンド・アップ。
東京・青山 (9/17)
北澤豪さん（元サッカー日本代表）も
参加した企画はNEWS ZEROでも
報道されました。



広報・メディア掲載

STAND UP TAKE ACTIONの取り組みが多くの人に報道されました。
また、「動く→動かす」でもチラシやポスターなどを制作して
多くの方に参加を呼びかけました。

- ◎新聞掲載記事4件：9月18日 朝日新聞：関西学院中学部のスタンド・アップの紹介、
9月27日 日本消費経済新聞 MDGsレビュー・サミットの解説、STAND UP TAKE ACTION東京パレードの紹介 ほか。
- ◎テレビ2件：9月18日 NHK：国連や大使館の職員によるスタンド・アップの紹介、
9月20日 日本テレビ NEWS ZERO 桜井翔イチメンにて、世界各国のスタンド・アップ紹介・MDGsなどの解説。
- ◎ラジオ1件 ◎WEB掲載記事3件 ※その他、100件以上のブログやホームページで紹介されました。

ユニークフォトコンテスト受賞作品

さまざまなスタンド・アップから、ひときわユニークな写真を表彰するユニークフォトコンテスト。
特別テーマの「2015年まで時間がない！」部門5グループと、特別賞6グループの作品をご紹介します。

●「2015年まで時間がない！」部門



ユネスコ部の呼びかけで。
大阪府／大阪教育大学附属高等学校池田校舎
ユネスコ部が先生・生徒に呼びかけて
お昼休みに実施。人文字でできた時計
の針が12時5分前を示すことで、
「時間がない！」を表現しました。



2015年よ、待ってくれ！！
栃木県／宇都宮大学教育学部
ホームレス経験者による踊りなどの
パフォーマンス「ソケリッサ！！」の
公演準備に取り組む学生たちが実施。
貧困や格差を国際的な視野から考え
ようと、立ち上がりました。



言葉だけでなく、行動しよう！
東京都／渋谷教育学園渋谷中学高等学校
「言葉だけではなく行動を起こそう！」
その想いで活動するActions, Not
Words同好会がポスターや校内放送で
呼びかけ、200人以上が参加しました。



アフリカに想いを寄せて。
長野県／長野県赤穂高等学校定時制生徒会
「世界中の子どもに教育を」キャン
ペーンを通じて世の中の矛盾を感じた
生徒たち。地元の西アフリカ太鼓&
ダンスグループ「サブニユマ」の演奏や
話を聞いて、立ち上がりました。



成長した子どもとともに。
福井県／Family Stand Up
家族で参加して2年目。長男はこの
国の人が苦しい暮らしをしているか
分かるようになり、次男は初めて自分
の足でスタンド・アップしました。

●特別賞



バレエ教室で。
京都府／社団法人松垣バレエ団
バレエの初演と同じように、一人ひとり
が心がけ続ければ、不可能なことも
可能になる。そんな想いで貧困をなく
そうと誓いました。



有機・無農薬の田んぼで。
埼玉県／クムスタカ・リンク
地域の仲間たちとともに、稲刈りを行
なってから立ち上がりました。自然の
恵みに感謝するとともに、世界の誰も
が受け取れたらと思います。



会社の全事業所で。
北海道／リコージャパン株式会社北海道営業本部
「全社員で取り組める社会貢献活動」
として、2008年から毎年参加。各事
業所の推進委員が働きかけ、全事業所
でのスタンド・アップが実現しました。



アウトドアショップで。
兵庫県／TIMBERLAND 阪急西宮ガーデンズ店
明るい未来を願って、楽しい雰囲気
で立ち上がりました。多くの人と接する
特性を生かして、多くの方にこうい
った活動があることを伝えます。



たくさんの仲間と。
沖縄県／社団法人ガールスカウト日本連盟沖縄県支部
食べ物に感謝し、食べられない人の
気持ちを考えるため地産地消にこだ
わったキャンプでアクション。これから
どんな行動が始まるか楽しみです。



小豆島の仲間たちと。
香川県／kokomama&げんきのたね夢楽family
自給自足の村づくりのため無農薬の
お米や野菜づくりなどを行なう"げんき
のたね夢楽(むら)"で、スタッフ&
宿泊していた人とアクションしました。

私たちの声を、世界のリーダーたちへ。 「貧困のない世界」を求めて、 74ヵ国が行動を起こしました。

国ごとにさまざまな工夫が見られるスタンド・アップ。

ミュージシャンやスポーツ選手などの著名人による呼びかけや、メディアの積極的な報道などもあり、貧困解決を求める市民の声が広がりました。

アジア 国会議員がMDGs達成のための 具体策を発表（フィリピン）

フィリピンでは、9月13日から19日を「MDGs週間」と定めてキャンペーンを展開し、MDGs サミットに出席するベニグノ・アキノ3世大統領の背中を強く後押ししました。もっとも大きな成果は、MDGs達成に大きな責任を担う国会議員が具体策を示したことです。国会下院でのイベントでは、副議長がMDGs 達成の予算確保政策「Debt for MDGs Swap」の実現や、過去に論争となった「性と生殖に関する法律」の議論再開などを発表。また、市民社会の提言を政府報告書に公式に盛り込むことも約束されました。さまざまなアクションを通して集まった市民の声が、これら



（貧困）と書かれた太鼓を叩いて貧困解決の決意を示した。



多くの若者が参加したマイ・ストリート・コンサート。

の成果を生み出しました。財団と民間企業が共同で、MDGs達成に大きく貢献した団体や個人を表彰する「MDGs 勇者賞」を制定。授賞式の様子はメディアで大きく取り上げられました。また、学生が国の将来や教育の理想像を考えて、大統領に手紙を届けるキャンペーンも行なわれました。世界共通テーマ“Make Noise for the MDGs”アクションとしては、ココナッツや竹棒、伝統楽器、協会の鐘などを使った街頭イベントを実施。首都マニラでの自転車イベントには500人以上が参加しました。メインイベントの「マイ・ストリート・コンサート」には、多くの有名人も参加し、MDGs の達成状況を確認できるWEBサイト「My Street Portal」の立ち上げを祝いました。



MDGs達成を訴える自転車イベント「Bike for MDGs」。



MDGs目標7に関連して行われた自転車イベントの参加者。

先進国 サッカー最高峰のセリエAが協力し、 80万人以上が参加（イタリア）

イタリアでは、全土で82万人が参加。サッカーの最高峰セリエA 全20 チームなど、各界の著名人から賛同を得て、アクションが全国に広がりました。各テレビ局がMDGsを特集したほか、80万人以上の読者をもつカソリック系雑誌「Famiglia Cristiana」は8 ページもの記事を掲載しました。さまざまなメディアを通して、のべ1億4400万人以上にメッセージを届けることに成功しました。これらのアクションが実を結び、政府のMDGs達成に向けた支援を強化するための5 案が国会で採択されました。



ASローマとボローニャの試合でスタンド・アップ。



アフリカ ミュージシャンの協力を得て （ジンバブエ）

朝の人気番組「グッド・モーニング・ジンバブエ」に、著名な歌手Stanley Gwanzuraと国連ミレニアムキャンペーンの政策アドバイザーが出演。「MDGsは達成可能」と訴え、MDGs達成のための行動と必要な資金の投入を求める「Do the right thing」キャンペーンへの参加を呼びかけました。また、その後の討論会では、援助・債務・貿易などの開発に重要な分野で連携が進んでいないことなど、解決すべき課題が指摘されました。ジンバブエ大学の協力を得て、キャンパス内でのコンサートやサッカーイベント「Kick Out Poverty」を実施。国内トップのレゲエ・グループTransit Crewも参加し、ブゼラを鳴り響かせて若者のアクションを呼びかけました。



私たちのゴール

ミレニアム開発目標（MDGs）達成に向けて

「2015年までに貧困を半減する」ことなどを定めたミレニアム開発目標（MDGs）の達成期限まで、あと5年。期限までに目標を達成することはできるのでしょうか。世界的な食料価格の高騰や地球温暖化などの影響で、飢餓人口は10億人を突破。また、1年間で5歳未満の子どもたち880万人が助かるはずの病気で命を落としているなど課題は山積みです。しかし、希望がないわけではありません。教育分野では、2000年以降、ケニア、エチオピアなど多くの国で政府が教育予算を増やし無料化に踏み切り、2008年には、小学校に通えない子どもたちの数が1999年比で3700万人減るなど、大きな成果がありました。また、ルワンダやタンザニアなど多くの国々で、政府が保健・医療分野への予算を増やし、医療費の無料化や医師・看護師などの増員に取り組みました。その結果、5歳までに命を落とす子どもや、妊娠・出産が原因で亡くなる女性の数が大きく減るなどの前進がありました。

カギを握る日本の役割

「貧困のない世界」を実現するために、多くの途上国が

MDGs達成を政策に盛り込み、達成のための努力を続けています。しかし、残念ながら資金が足りません。先進国の一員である日本には、途上国の努力を後押しする、資金や技術などのさまざまな協力が期待されています。

2010年9月、国連MDGsレビュー・サミットに出席した菅直人総理は、教育と保健分野に5年間で合計85億ドルの支援を行うことを表明し、これを「菅コミットメント」（※）と名づけました。日本の開発協力への支出は年々減っていて、現在は最大時の60%を下回るほどですが、「菅コミットメント」によって活性化が期待できます。

しかし、これだけでは十分ではありません。MDGs達成のためには、これまでに約束された国際目標の達成をめざして、途上国への協力をさらに拡充することが必要です。「菅コミットメント」を含む国際目標がきちんと実施されるかを見守り、達成に取り組むよう働きかけるかどうか。私たち一人ひとりの行動にも世界が注目しています。

※内訳は教育分野35億ドル、保健分野50億ドル。教育についてはMDGsが重視している基礎教育だけでなく、高等教育を含む教育分野全体の援助額。保健分野は過去5年間の実績と比べて若干の増額になると期待されている。

（出典：FAO、ユニセフ、国連）

ミレニアム開発目標（MDGs）とは

ミレニアム開発目標（MDGs）は、先進国と開発途上国の代表者たちがともに協力しあい、貧困のない世界を実現するためのグローバルな目標です。2000年9月の国連ミレニアムサミットで採択された「国連ミレニアム宣言」に基づいて、これまでの開発目標が統合されました。貧困問題や教育、医療など分野ごとの数値目標を定め、2015年を期限として実現を目指しています。

目標1
とてつもない貧困と
飢えをなくそう



目標2
みんなが小学校に
通えるようにしよう



目標3
ジェンダーの平等を
進めて女性の地位を
向上させよう



目標4
子どもの死亡率を
下げよう



目標5
女性が健康な状態で
妊娠し、子どもを
産めるようにしよう



目標6
HIV/エイズ、マラリア、
その他の病気が
広がるのを防ごう



目標7
環境の持続可能性を
確保しよう



目標8
世界の一員として、
先進国「も」
責任を果たそう

